

## 会 議 録 (要 旨)

|   |   |
|---|---|
| 会 議 名   | 平成30年度第3回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会  |
| 開 催 日 時                                       | 平成30年9月18日(火) 午後6時～午後7時50分  |
| 開 催 場 所                                       | 市役所4階 406会議室  |
| 出 席 者 及 び<br>欠 席 者                            | 出席者:委員6名<br>欠席者:委員1名  |
| 議 題 等   | 1 平成29年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について<br>2 その他  |
| 結 論<br>(決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)           | 1 推進委員会の意見は、事務局でまとめて後日委員へ確認を依頼する。修正等があれば9月26日(水)正午までに事務局へ連絡する。<br>2 次回の会議は2月頃に開催予定である。  |
| 審 議 経 過<br>(主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) | 1 平成29年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について<br>(事務局)平成29年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況(基本目標3部分)について説明<br><br>—質疑・意見等—<br>基本目標3<br>(委員)「生活利便性の高いまちづくり」のKPI「買い物等日常生活の利便性の満足度」について、平成27年度が64.7%で、平成31年度の目標値は70%以上となっている。平成27年度の満足度が予想以上に高い。<br>(事務局)大型商業施設があることによって満足度が上がっているようである。<br>(委員)武蔵村山市を選んで居住されている人では満足している人が多いと思うが、武蔵村山市で生まれ育った20歳代で転出者が多くなっているのは、利便性が原因なのか、就職先や進学先の問題なのか。<br>(委員)年代別の満足度が分かるとよい。<br>(委員)満足度は地域によって異なるはずである。大型商業施設に近いから便利というだけでなく、満足に思っていない人は何に対して不便に感じているのかに着目し、満足度を上げていくことが大事ではないか。<br>(事務局)原因としては交通の不便さが最も大きいと思われる。<br>(委員)モノレール延伸までの手当てが大事で、お金がかからない工夫があるとよい。<br>(委員)利便性について満足と回答した要因を分析して、武蔵村山市の魅力を発信していけるとよい。<br>(委員)車がなければ不便だが、生活に必要なものは市内にある程度そろっている。<br>(委員)市内の移動は車がないと非常に不便である。車を所有していない人にとっては大変である。今後、高齢化が更に進行しても、運転免許証の返納は進まないと思う。車がなくても住みやすいまちづくりが理想である。 |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>(委 員) モノレールが延伸しても、導入予定の新青梅街道から離れている場所に居住している人は不便なのではないか。</p> <p>(事務局) モノレールが延伸されれば、市内のバスの運行ルートを再編する必要があると考えている。</p> <p>(委 員) 自転車での回遊性の向上という面から、レンタサイクルの実証実験などはできないか。</p> <p>(事務局) 昨年度9市の広域連携サミットでレンタサイクルによる連携の話が出ている。実現するかは分からない。</p> <p>(委 員) 「医師、保健師等による健康相談の実施」における参加者数が大幅に減っているのが気になる。</p> <p>(事務局) 以前は地区会館等で健康相談をする人が多かったが、今は厚生労働省の政策から、まずかかりつけ医に相談する流れに変わってきているので、今年度から相談日を設けずに、保健相談センターにおいて保健師（職員）が随時相談を受ける体制としている。</p> <p>(委 員) 健康教室の参加者数についても減少している。</p> <p>(事務局) 理由については主管課に確認する。<br/>(確認したところ、人気のあった骨密度測定が機械の故障により実施できなくなり、参加者が減少した。平成29年度には骨密度測定機を購入し、教室も再開しているが、参加者があまり増加していない状況である。周知に力を入れていく。)</p> <p>(委 員) ゲートキーパーとは何か。</p> <p>(事務局) 自殺防止対策として、周囲の人の心身不調のサインに気付き、適切な対応を図る役割を担う人のことである。</p> <p>(委 員) 「(仮称) 協働推進プランの策定」とはどんな計画を予定しているのか。</p> <p>(事務局) 現在市民協働に関する指針は存在しているが、策定からかなり時間が経過している。市民協働をどう進めていくのか、実行計画のようなものの必要性について検討している段階である。</p> <p>(委 員) 内容については、防災関係がメインになるのか。</p> <p>(事務局) 防災に限るものではない。地域コミュニティを充実させることによつて、自助・共助を強化していくという内容を検討していた。</p> <p>(委 員) 本推進委員会の会議に、主管課の職員も出席してもらえるとよい。</p> <p>(委 員) シルバー人材センターの「新たな業務開拓」というのは、市が行うものなのか。</p> <p>(事務局) 業務開拓はシルバー人材センターが行う。市から運営費の補助金を出している。</p> <p>(委 員) 産業振興について、創業支援としてセミナー等を実施しても人がなかなか集まらない。市内の事業者は、どんな支援を求めているのか。人が集まらない理由として、告知なのか、ニーズに応えられていないのかがよく分からない。</p> <p>(事務局) 前回の会議でも話があったが、事業のPRの点でできていない部分はあると思う。</p> <p>(委 員) 既存事業者向けのセミナーでも、なかなか集まらない。</p> <p>(委 員) 事業者向けの意識調査で、どういう支援があったらよいか聞けるとよい。</p> <p>(委 員) ニーズが明確であればアンケートでも出てくると思うが、多くの場合、ニーズは潜在的であるので、自身でも思いつかないのではないか。セミナーを受ける有効性が分からないのではないか。</p> <p>(委 員) 課題として出ているのは、人材確保に関することが多い。ただ</p> |
|--|--|

|  |   |
|--|---|
|  | <p>し、人材確保をテーマにしてセミナーを開催しても、人は集まらない。</p> <p>(委員) 起業する際に、その後のツテを紹介してもらえるセミナーだとよい。取引先同士のマッチングがあるとよい。</p> <p>(事務局) 「(仮称) 産業振興ビジョン」の策定を検討しており、平成32年度に策定する予定である。その中で事業者のニーズ調査などは行うべきかと思う。</p> <p>(委員) 他市とのつながりがあるとよい。自治体同士というより、創業支援センターTAMAなど異業種(民間)との意見交換があると、課題も見えやすくなるのではないか。</p> <p>(委員) 婚活の支援について、商工会が婚活イベントを行っているが、市も行うということか。イベントへの参加者数が平成29年度0人で、平成31年度の目標は90人となっている。何を行うつもりなのか。</p> <p>(委員) 商工会と連携して行えばよいのではないか。</p> <p>(委員) 商工会も集客に苦勞しているようである。そもそも婚活を市が支援すべきものなのか。例えば、TAMAウエディング推進会と組んで実施して、参加者に武蔵村山市に住んでみたいと思ってもらえるとよい。</p> <p>(事務局) 農業者でも担い手不足が問題である。農業者の方の集まりにチラシを配布するなど一つの方法である。</p> <p>(委員) 市内にとどまらず、全国に発信するとよい。「東京のリゾート」など銘打って、イベントを行うなら大胆に行った方がよい。</p> <p>(事務局) 東大和市でも婚活イベントを開催している。市役所が行うことで、参加者にも安心感があるようである。武蔵村山市でも過去に消防団で婚活イベントを行った際に、市報で参加者を募集したところ、たくさんの応募をいただいた。</p> <p>(委員) 「移動式赤ちゃんの駅」について、あまり浸透していない。名前を聞いても何をするものなのかが分からない。例えば、「赤ちゃんおむつ替えステーション」「赤ちゃん休憩室」など、分かりやすい名称にした方が、周知も図れるのではないか。また、今年度以降の予定に「PTAや自治会への周知を行う」とあるが、子育て世代には届きづらいと思う。子育て広場や子ども家庭支援センターに周知を図った方が効果的ではないか。</p> <p>(委員) 「妊娠から出産、育児の切れ目のない支援」のKPI「子育て世代包括支援センターの整備」について、どのくらい利用されているのか。</p> <p>(事務局) 保健相談センターお伊勢の森分室の1階に、子育て世代包括支援センター「ハグはぐ・むらやま」を設置している。母子手帳の交付時に保健師が面接を行っている。保育園や幼稚園から小学校に上がる際にも、子どもの状況が伝わるようにしている。最終的には18歳まで支援していきたいと考えている。</p> <p>(委員) 18歳までの支援は大事なので、ぜひ実施してほしい。</p> <p>2 その他</p> <p>(事務局) 次期総合戦略策定に係る市民等意識調査の設問について、先日メールにて委員から御意見をいただいた。その意見は反映させて、今後市民等へ意識調査を実施する予定である。</p> <p>(委員) 全体として、武蔵村山市ならではの調査項目はなく、一般的なものになっている。特に転入出者向けものは、どこの市においても当てはまる設問である。参考に配布した日野市のアンケート調査は、なぜ日野市が住みやすいのかなど、日野市ならではの設問になっている。そういう意見を拾ってこそ施策に反映</p> |
|--|---|

|  |   |
|--|---|
|  | <p>できると思う。せっかく調査をするのであれば、武蔵村山市のどこが良くてどこが悪いのか、意見を吸い上げられるとよい。</p> <p>(事務局) 前回の意識調査結果と比較したいところもあるので、あまり大幅に変えることはできない。意見のとおり、武蔵村山市ならではの設問というのはあった方がよいと思う。</p> <p>(委員) 定点観測はするにしても、それに加え、明確な意図をもってアンケートをとった方がよい。同じような設問は削除し、設問数は少なくした方がよい。</p> <p>結婚・出産・子育てに関する意識調査の6ページの、お子さんが生まれて仕事を辞めた理由を聞く設問の選択肢に、「通勤の不便さ」も入れたらどうか。そういうところから、どういう地域だったらよいのか、市内に仕事をもってくるにはどうしたらよいのかという話になる。どういう施策に反映させたいから、これを聞きたいという意図が見えない。</p> <p>(委員) アンケートの結果を施策に反映させるのが基本である。アンケートと施策がバラバラな感じを受ける。</p> <p>(事務局) 次期総合戦略の策定に当たっては、都度推進委員会で意見をいただきたい。</p> <p>(委員) ターゲットを絞って施策を打つという考え方は大切である。</p> <p>(事務局) 第1回から本日の推進委員会でいただいた意見を事務局でまとめて、後日委員にメールするので、9月26日(水)正午までに確認をお願いする。</p> <p>今回は、人口ビジョン及び市民等意識調査の集計結果を確認いただく場を設けたいと考えており、開催は2月頃とし、近くなつてから日程を調整させていただく。</p> |
|--|---|

|                    |  |
|--------------------|--|
| <p>会議の公開・非公開の別</p> | <p>■公開 <span style="float: right;">傍聴者： <u>  0  </u>人</span><br/> <input type="checkbox"/>一部公開<br/> <input type="checkbox"/>非公開<br/>         ※一部公開又は非公開とした理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 50px; margin-top: 10px;"></div> |
|--------------------|--|

|                     |   |
|---------------------|---|
| <p>会議録の開示・非開示の別</p> | <p>■開示<br/> <input type="checkbox"/>一部開示(根拠法令等： )<br/> <input type="checkbox"/>非開示(根拠法令等： )</p> |
|---------------------|---|

|              |                            |
|--------------|----------------------------|
| <p>庶務担当課</p> | <p>企画財務部 企画政策課(内線：374)</p> |
|--------------|----------------------------|

(日本工業規格A列4番)